

43. 名張にゆかりの人々

古い歴史のある名張には、日本の歴史・文化に登場した人物や名張にゆかりのある有名な文献や作品が数多くあります。郷土の歴史に思いを巡らせたり、さまざまな分野で足跡を残した人物や活躍している人に目を向けてみましょう。

■ 大来皇女【661(斉明7)年～701(大宝元)年】

天武天皇を父に持つ大来皇女は、初代斎王として13年間、天皇の代わりに伊勢神宮の斎宮で神に仕えて過ごしました。

名張中央公園近くにある寺院跡の夏見廃寺は、7世紀から8世紀ごろに大来皇女が父のために建てた昌福寺であるといわれています。



夏見廃寺

■ 観阿弥【1333(元弘3)年～1384(至徳元)年】

観阿弥は、妻の実家である上小波田の地で初めて座(後の観世座)を建てたといわれています。息子の世阿弥と共に京都で人気を博し、その後、観阿弥親子は後世に名声を残す能楽大成者となりました。



名張駅前にある観阿弥像

■ 藤堂高吉【1579(天正7)年～1670(寛文10)年】

徳川幕府の重臣の大名、初代津藩主である藤堂高虎の養子で、名張のまちの基盤を作った人物です。本格的な御殿の建設を進め、名張の町の発展のため尽力しました。



名張藤堂家邸

名張に関連した文学作品

名張を舞台にした小説や、名張を訪れた時の紀行文などがたくさんあります。どれも、その時代の名張の様子や素晴らしさが書かれています。そのうち代表的なものを紹介します。市立図書館の郷土資料室で読むことができます。

- 『万葉集』(巻1) 「わが背子はいづく行くらむ おきつもの 隠の山を 今日か越ゆるむ」
- 『菅笠日記』 本居宣長 松阪から吉野へ行くために通った名張の様子を描いています。
- 『神の薫』 橋曙覧・井出今滋 福井を出発し伊勢からの旅の途中の名張の様子を歌にしています。
- 『名張乙女』 田山花袋 月ヶ瀬の旅館で出会った名張出身の少女のことを描いています。
- 『中学時代』 他 奥田継夫 小学6年生から過ごした戦後の名張のことを題材にしています。
- 歌集『水枕』 稲森宗太郎 名張出身の歌人で、幼いころの思い出も歌にしています。
- 『名張は秋の漂う町』 戸塚文子 昭和28年に訪れた名張の様子を紀行文にしています。



図書館にある郷土資料室

夏見廃寺【→P38】 観阿弥【→P43】 名張藤堂家【→P44,46,79】



■ 江戸川乱歩(本名：平井太郎)

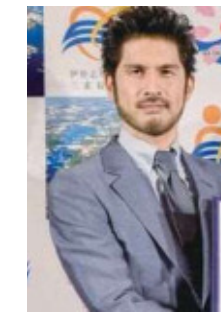
【1894(明治27)年～1965(昭和40)年】

日本の探偵小説の生みの親である江戸川乱歩は、1894(明治27)年新町で生まれ、生後間もなく転居しました。しかし、晩年ようやく名張を訪れ、市民との交流や町の様子を描いた『ふるさと発見記』の執筆をおこないました。それを記念して1955(昭和30)年には市民の手で「江戸川乱歩生誕地」碑を建て、市立図書館には江戸川乱歩コーナーを設け、乱歩に関する資料、作品などを収集展示しています。日本に探偵小説という新しいジャンルを切り開き、熱狂的な人気を集めた乱歩作品は、今も多くの読者に読み継がれています。

■ 平井堅【1972(昭和47)年～】

シンガーソングライター。大阪府生まれ。

2歳から18歳まで桔梗が丘で暮らしました。1995(平成7)年CDデビューし、「楽園」「瞳をとじて」「大きな古時計」、ふるさと名張をイメージした「桔梗が丘」など多数のヒット曲があります。音楽番組やライブコンサートなどで活躍するほか、2016(平成28)年には、伊勢志摩サミットの県公認サポーターとして、応援ソング「TIME」などを手掛けました。



■ 山口蛍【1990(平成2)年～】

プロサッカー選手。矢川生まれ。

旧錦生小学校3年生からサッカーを始め、中学1年生でセレッソ大阪ジュニアユースに入団。現在、Jリーグ・ヴィッセル神戸に所属しています。2012(平成24)年U-23日本代表としてロンドン五輪ベスト4、2013(平成25)年日本代表に初選出され東アジア大会で優勝しMVPを獲得。サッカーワールドカップの2014(平成26年)ブラジル大会と2018(平成30年)ロシア大会の2大会連続で、日本代表として出場しました。



名張に関係の深い文献や作品は、まだ他にもあります。どんな作品があるか調べてみましょう。また、名張出身の人や名張にゆかりのある人、現在も活躍している有名人などが他にもいます。どんな人がいるか調べてみましょう。